

---

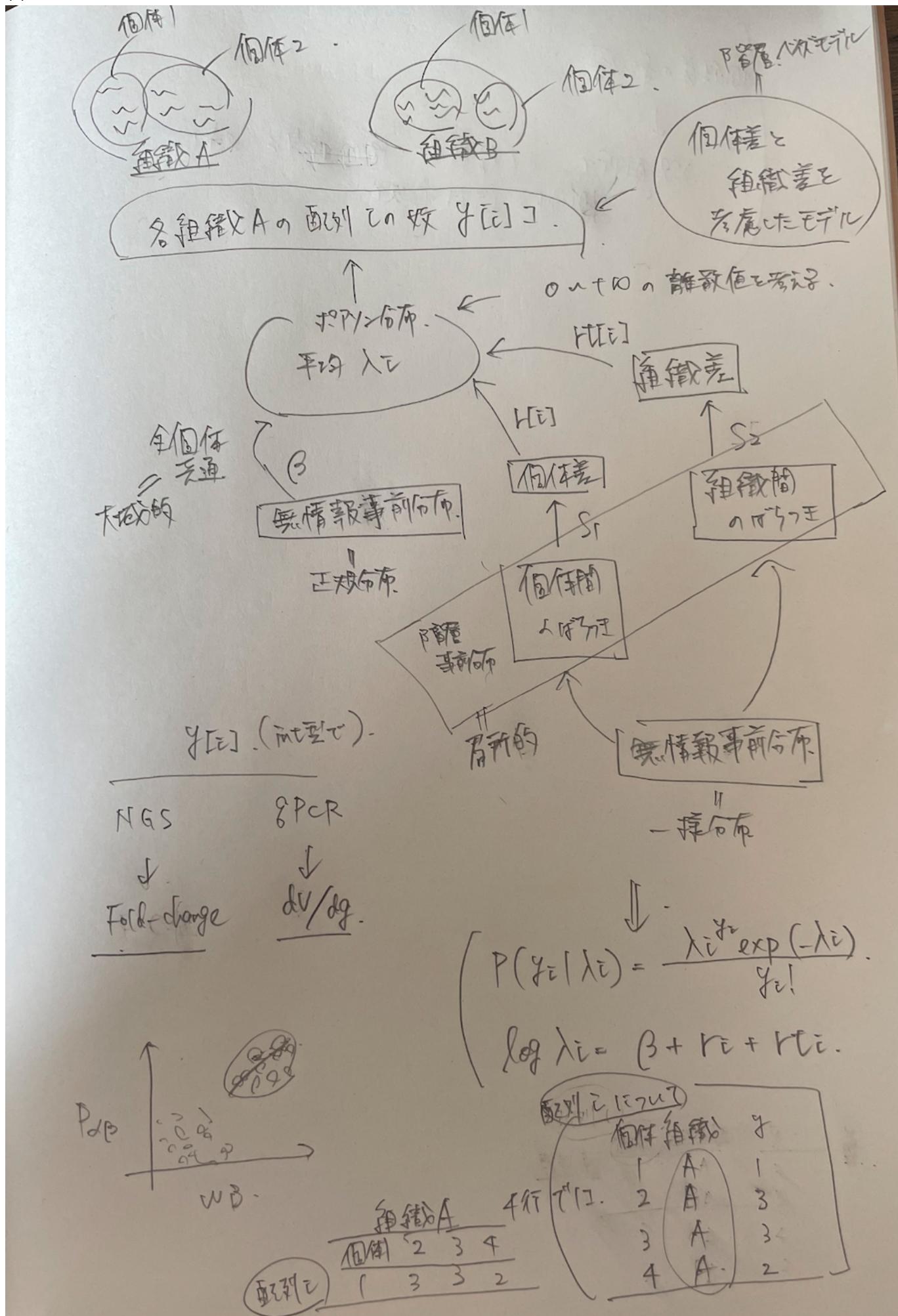
## TODO

---

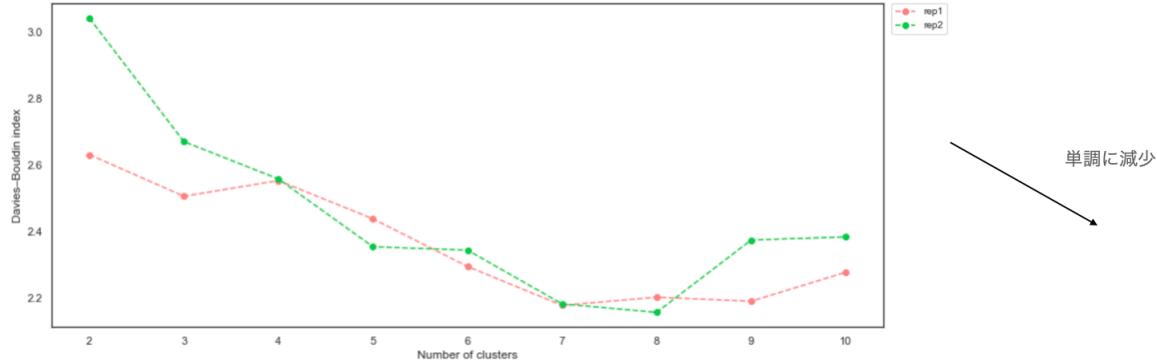
個体差の影響を考慮すべきだろう

- (i) 異なる個体間でも信頼性の高い結果を得るために、個体1...nとして、メタ解析で用いられるQ統計量とI<sup>2</sup>統計量の統計手法で、個体データの異質性を評価し、固定効果モデルの効果量、またはランダム効果モデルの効果量を組み込んでみる。

(ii) 以下の図のような統計モデリングしてみる。



DRG: 内臓組織



Davies-Bouldin indexを用いて、最適なグループ数（kの値）を探索  
→ 最小なるクラスター数が最適なグループ数を示す

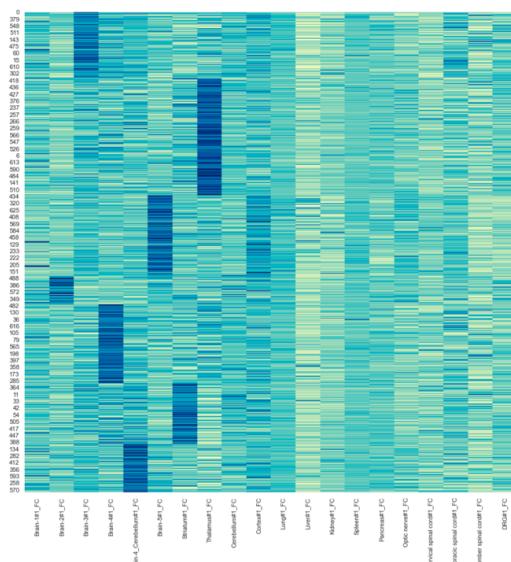
rep1 → k=7  
rep2 → k=8

Brainグループに含まれる数多くの組織で  
頻度の高い帯がよく観察されるようなグループ分けになる

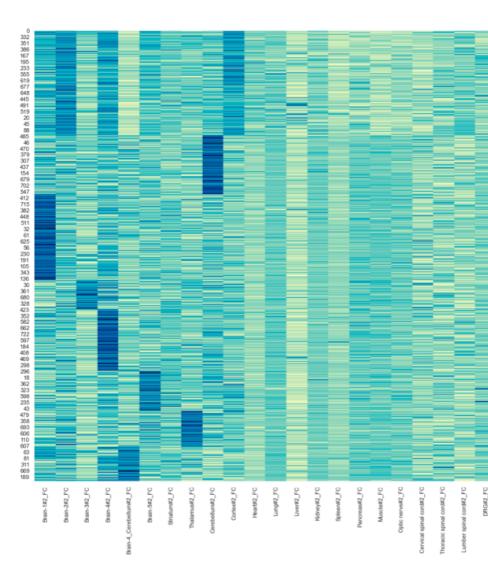
2つの個体がkの値が異なるのは、個体間で配列頻度にばらつきがあることが関係すると考えられる

DRG: 内臓組織

k=7



k=8



&gt;0のもの除外

フィルタリング（ノイズ除去）

個体間のデータをマージ

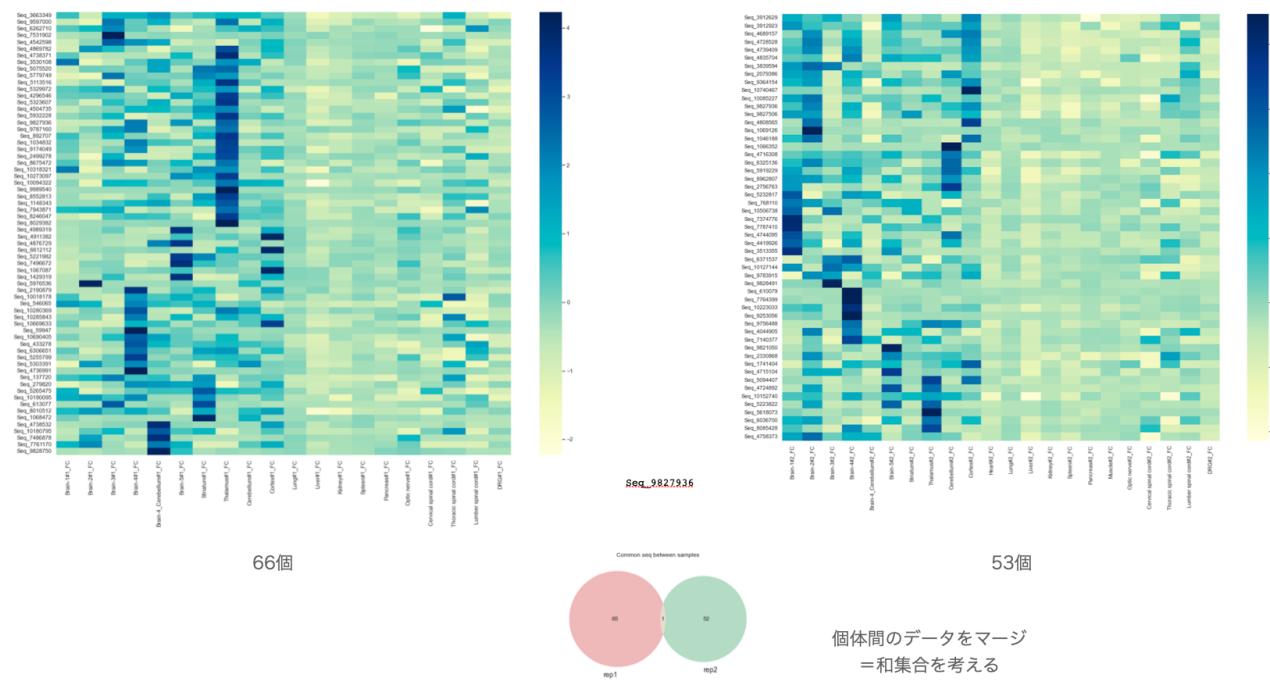
グループごとの配列類似性

&gt;0のもの除外

DRG: 內臟組織

フィルタリング後（ノイズ除去）

>0のもの除外



DRG: 内臓組織

### グループごとの配列類似性

Rep1

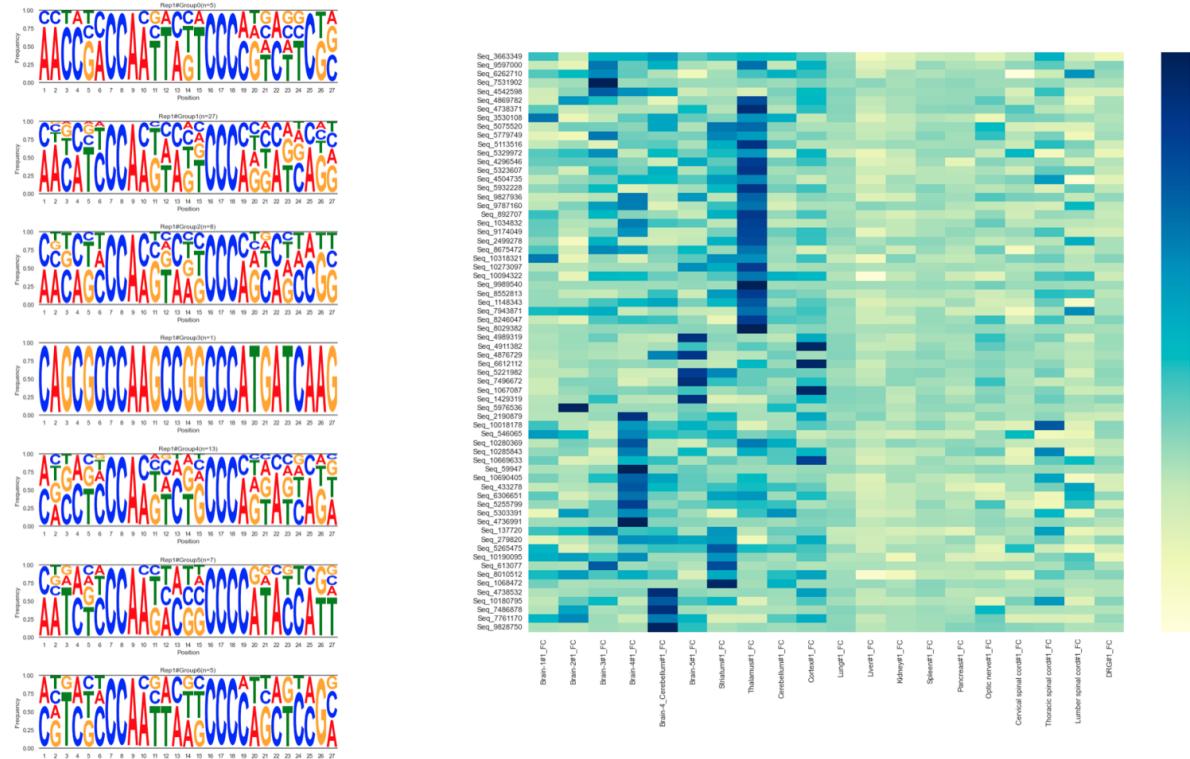
## グループごとの 配列プロファイル

Rep2

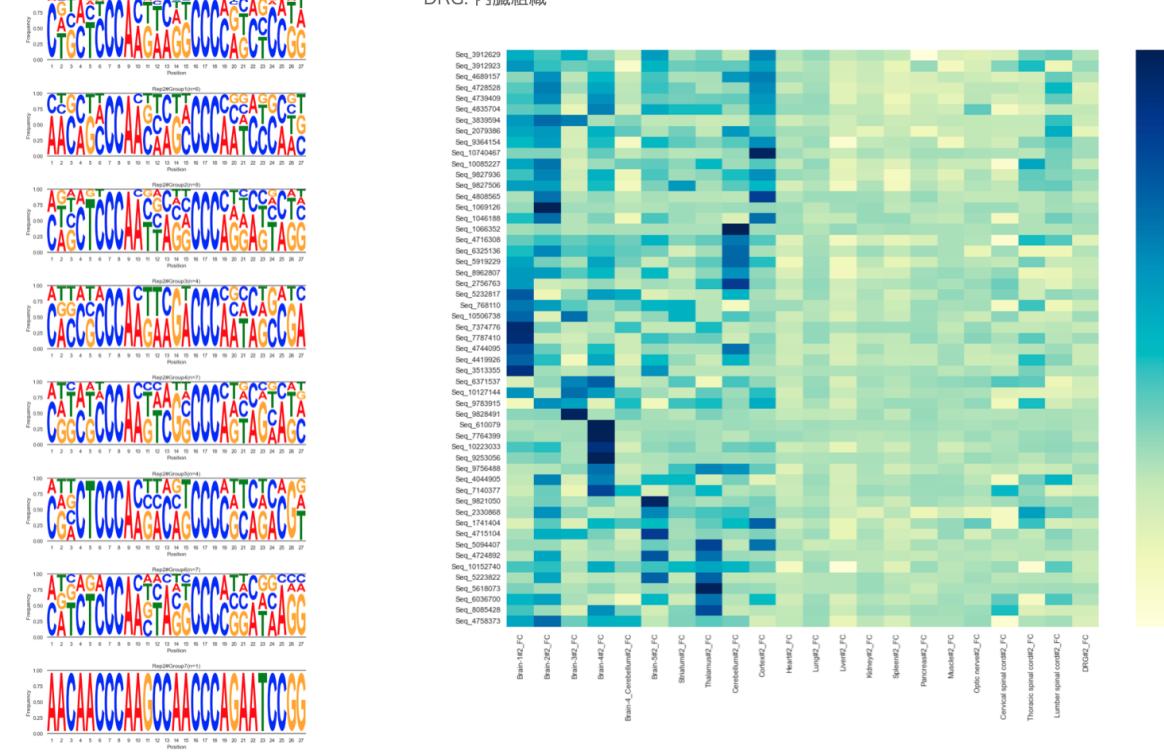
## グループごとの 配列プロファイル

## 共通点は？

## DRG: 内臟組織

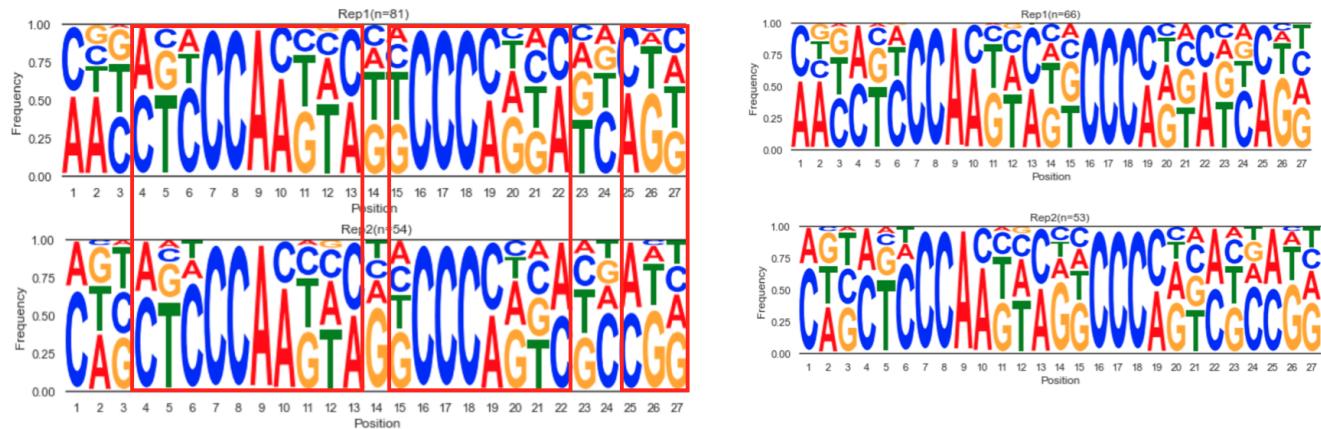


## DRG: 内臟組織



DRG: 内臓組織

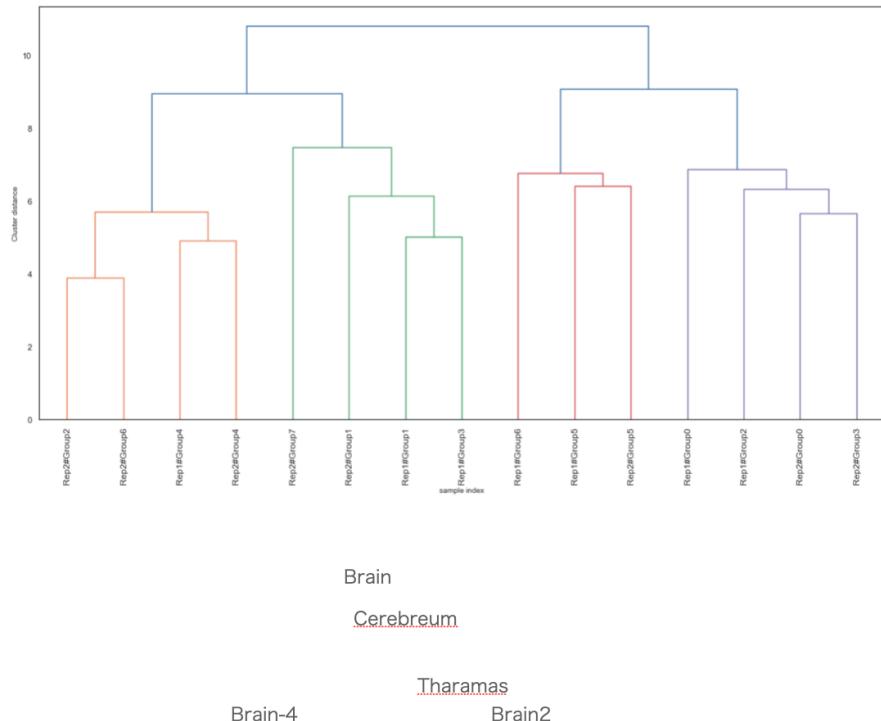
Brainグループで高い頻度で出現する配列では、個体間で塩基の出現の仕方が似ている



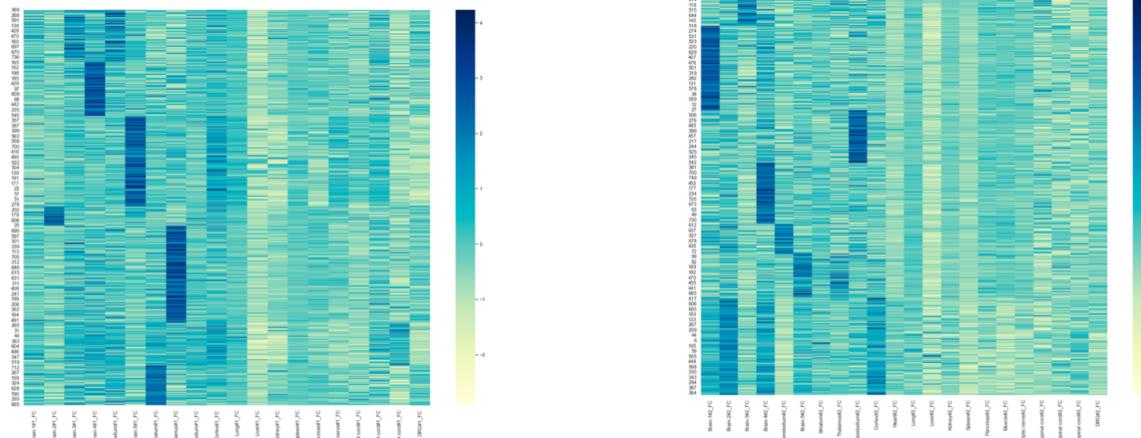
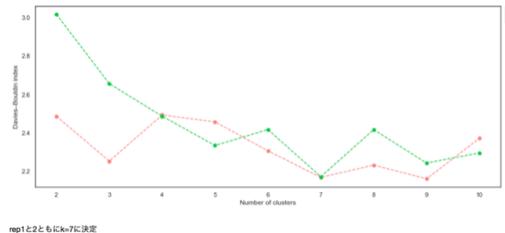
Brainグループに属する組織の中で  
クラスタリングされた配列の組成に着目すると  
脳組織ごとに多様性が見られる

つまり、  
標的配列は組織特異的に導入効率が異なる特徴を有しているのかも

DRG: 内臓組織

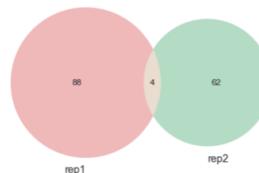
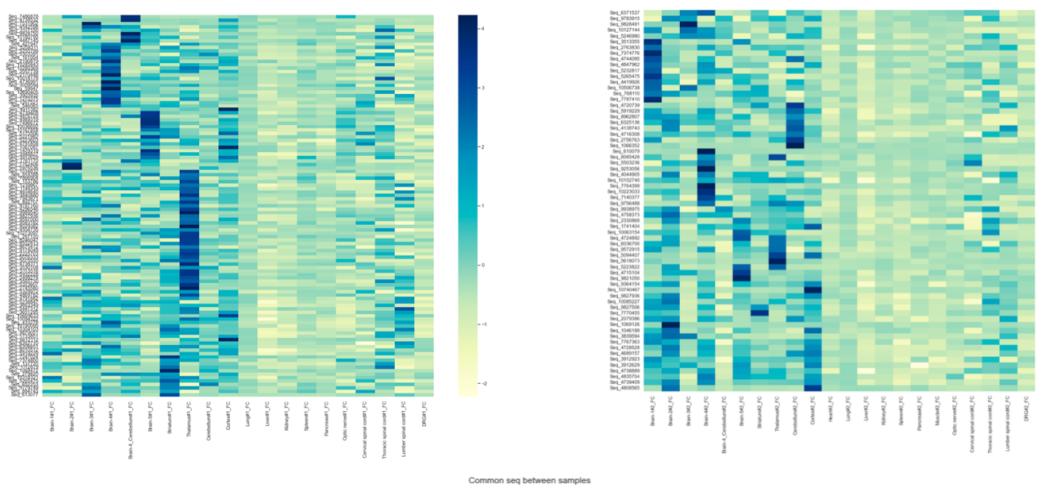


DRG: 神經組織



DRG: 神經組織

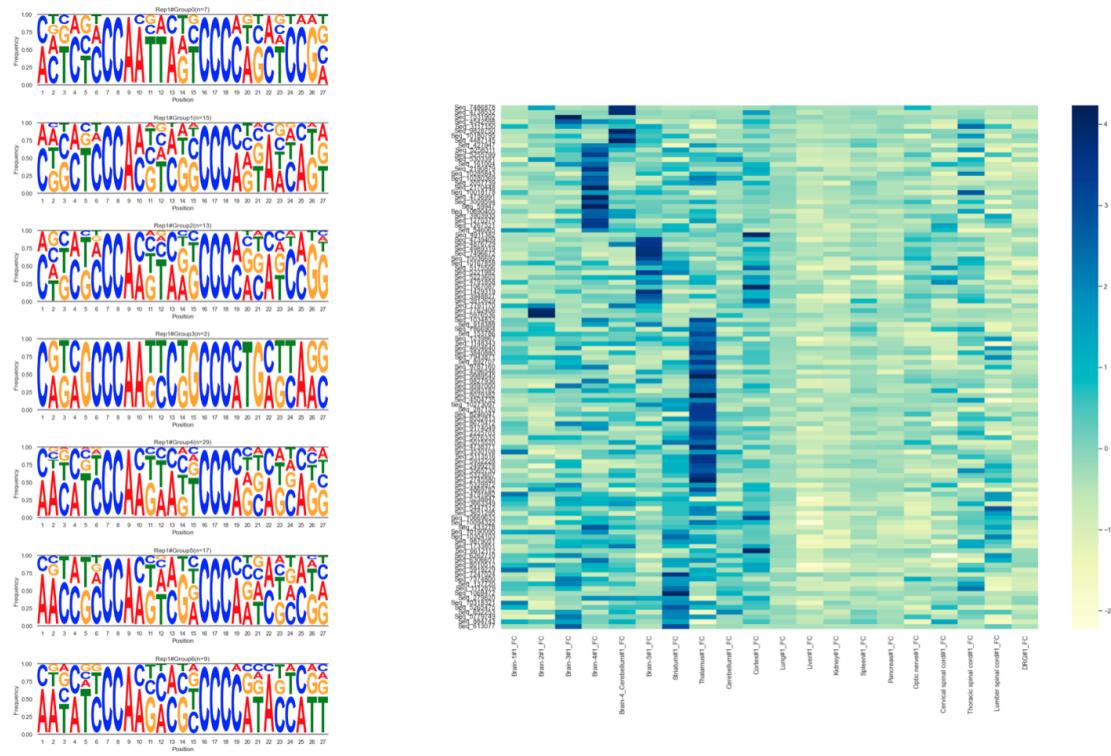
內臟組織 < 0 & DRG < 0



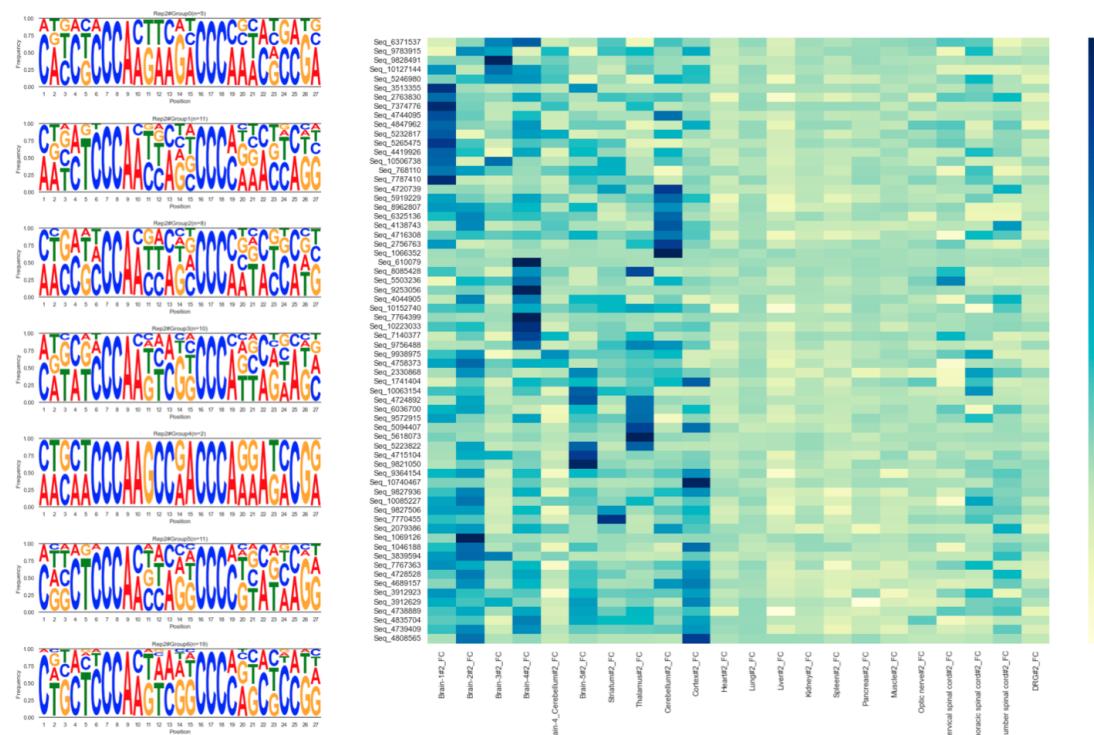
66個

Seq\_5265475', 'Seq\_9827936', 'Seq\_5919229', 'Seq\_4739409'

DRG: 神經組織



DRG: 神經組織



DRG: 神經組織

